

（３）既存の教科・科目との関連ならびに教育課程上の位置づけ

- ①「ＳＳ物理基礎」「ＳＳ生物基礎」「ＳＳ数学Ⅰ」では、ＳＳを付さないそれぞれの既存科目の内容をすべて効率的に網羅し、また各科目で身につけた教科の力を課題探究においての課題発見および解決法の研究に生かせるような内容を加えている。
- ②「ＳＳ英語表現Ⅰ」では、英語を使ったインプット・アウトプットの力を伸ばせるように４技能すべてをバランス良く配置している。科学的な題材を用いることで、英語の習得とともに科学への興味関心も喚起することができる。
- ③「ＳＳ研究基礎」では既存の課題探究を、より科学的な見方・考え方を伸ばせるような指導計画としている。すべての生徒に履修させることで、函中コンピテンシーを身につけさせることができる。
- ④「ＳＳ特講Ⅰ」は、最先端の科学技術に興味を持ちグローバルサイエンスリーダーを目指す生徒が選択している。時間外単位と位置づけており、既存教科の理科の内容を超えた優れた研究・観察を実践できる生徒の育成を目指す場となっている。

（ｆ） 教員の指導力向上のための取り組み

（１）校内研修会の実施

①第１回ＳＳＨ推進部校内研修会

- １ 研修タイトル：「教科横断カリキュラム研究および中部ＳＳＨのこれから」
- ２ 目的
 - 〔１〕大沼環境調査などの実践を通して、教科横断カリキュラムの開発のヒントとする。
 - 〔２〕半年間の取り組みを通じて中部高校ＳＳＨのこれからについて考える
- ３ 実施日：９月２日（水）１３：３０～１４：３０（期末考査２日目）
- ４ 会場：本校視聴覚室
- ５ 内容
 - 〔１〕教科横断授業の実践報告（１学年）
 - ①英語（コミュ英）を中心とした取り組み（英・生・世）・・・奥水教諭
 - ②大沼環境調査（ＳＳ研究基礎）の取り組み（理科を中心として）・・・山形教諭
 - 〔２〕アンケートから見える本校ＳＳＨの今後・・・泊教諭（ＳＳＨ推進部）
 - 〔３〕校長講評
 - ・今年度実施された教科横断授業の実践例を発表し、教員全員で共有した。
 - ・生徒の自己変容アンケートからは「洞察力」「論理的思考力」などで高まりが大きいことから教科横断授業の取り組みを通じて「頭を使って考える力」が鍛えられていると考えられるが、「社会貢献力」・「他者理解力」・「リーダーシップ」などで伸びが小さいことから、コロナ下の学校生活で、他者との関わりを必要とする場面の経験が少なかったことが原因の一つと考えられる。

②第２回ＳＳＨ推進部校内研修会

- １ 研修タイトル：「課題探究指導法の研究」
- ２ 目的：１年後期「ＳＳ研究基礎」・２年全員「ＳＳ研究発展Ⅰ」・３年理型「ＳＳ研究発展Ⅱ」の全校的な指導を展開するために、運営指導委員をお招きして先進校の実践例について研究する。
- ３ 実施日：９月２３日（水）１５：１０～１６：２０
- ４ 会場：本校視聴覚室
- ５ 講師：鳩 貝 太 郎 氏（本校ＳＳＨ運営指導委員）
- ６ 内容
 - ①ＳＳＨの基本理念について
 - ②他府県ＳＳＨ先進校の課題研究の実践例の紹介
 - ③質疑応答
 - ④校長講評

○教員感想（抜粋）

- ・これからの教育に必要なことが理解できる内容だったと思います。
- ・文系でも必要であることが対外的にアピールされていくと良いと思います。

- ・SSHを上手に活用し、生徒の資質や能力を最大限に伸ばす方向性を示唆していただきました。
- ・さらなる教諭側の頑張りが必要だと感じた。

（２）他校視察について

北海道外のSSH先進校の視察を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から道外への視察研修は今年度は中止とした。しかしながら、本校は令和４年度から理数科を設置することとなったため、北海道内理数科設置校でSSHに指定されている２校の視察を行った。北海道内の感染拡大が落ち着いた７月に、理数科設置検討委員会メンバーにより視察を実施した。

①目的

・北海道内の理数科設置校を視察し、本校での理数科カリキュラム作成の参考とし、またSSH事業との関連性について考察する。

②視察校 北海道釧路湖陵高等学校、北海道室蘭栄高等学校

③日時 令和２年７月１５～１６日

④視察者 白鳥宏之（主幹教諭）、二瓶賢一（教諭：教務部長）

⑤校内研修会の実施（視察報告） 令和２年７月２７日（本校視聴覚室）

・理数科の設置とそれに伴う教育課程の新設、ならびにSSHとの関係について視察・報告および質疑応答を行った。